シュリー・チャクラの描き方とヴィディヤーの抽出法
——NṢA 1.1-119ab 和訳——

島　　岩

第一章

帰敬偈

1.1. ガナ[1]の主・惑星[2]・星宿[3]・ヨーギニー[4]・［十二］宮[5]の姿をし，

1　この「ガナ（群）」の意味に関して，諸註釈は次の三通りの解釈をしている。(1) 50のマルット神群あるいはルドラ神群（*Ṛjuvimarśinī* および *Artharatnāvalī*）。(2) a から kṣa までの50文字，すなわち，16母音（a, ā, i, ī, u, ū, ṛ, ṝ, ḷ, ḹ, e, ai, o, au, aṃ, aḥ）＋25子音（k 行，c 行，ṭ行，t 行，p 行）＋ 9 文字（y, r, l, v, ś, ṣ, s, h, kṣ）（*Artharatnāvalī*）。(3) a 行，k 行，c 行，ṭ 行，t 行，p 行，y 行，ś 行の 8 群（*Vivaraṇa*）。

2　「惑星」とは，太陽，火星，金星，水星，木星，土星，月，ラーフ，ケートゥの 9 惑星のことである（*Artharatnāvalī*）。

3　「星宿」とは，(1) アシュヴィニー，(2) バラニー，(3) クリッティカー，(4) ローヒニー，(5) ムリガシラス，(6) アールドラー，(7) プナルヴァス，(8) プシュヤ，(9) アーシュレーシャ，(10) マガー，(11) プールヴァ・パールグニー，(12) ウッタラ・パールグニー，(13) ハスタ，(14) チトラー，(15) スヴァーティー，(16) ヴィシャーカー，(17) アヌラーダー，(18) ジェーシュター，(19) ムーラ，(20) プールヴァ・アーシャーダー，(21) ウッタラ・アーシャーダー，(22) シュラヴァナ，(23) ダニシュター，(24) シャタビシャジャ，(25) プールヴァ・バードラパダー，(26) ウッタラ・バードラパダー，(27) レーヴァティーの27である（*Artharatnāvalī*）。

4　「ヨーギニー」とは、ブラフミー、マヘーシュヴァリー、カウマーリー、ヴァイ

マントラからなり，霊場[6]の姿をした，字母（mātṛkā）である女神に，私は敬礼する。

1.2. 時の流れの波によって引き起こされた束縛[7]を滅する最高の主宰女神であり，字母である偉大な女神に，私は敬礼する。

1.3. その［字母の］一字を完成しただけでも[8]，人は，太陽，ガルダ，月，カーマ神，シャンカラ神，火［アグニ神］，ヴィシュヌ神に匹敵するようになる。

1.4. 私は，万物の主宰女神であり，偉大で栄光ある完全な字母である女神に礼拝する。三世界[9]は，その［字母の］文字という月の光によって飾られているのである。

1.5. 私は完全な字母に礼拝する。ブラフマー神の卵から最下層の地獄までからなるこの三世界は，その［字母の］文字という偉大な糸で繋がれているのである。

1.6. ブラフマー神の卵から最下層の地獄までの全世界が，その［字母の］十

シュナヴィー，ヴァーラーヒー，アインドラーニー，チャームンダー，マハーラクシュミーの8ヨーギニーのことである（*Artharatnāvalī*）。

5　「十二宮」とは，白羊宮（meṣa），金牛宮（vṛṣan），双子宮（mithuna），巨蟹宮（karka），獅子宮（siṃha），処女宮（kanyā），天秤宮（tula），天蠍宮（vṛścika），人馬宮（dhanus），磨羯宮（makara），宝瓶宮（kumbha），双魚宮（mīna）の12である（*Artharatnāvalī*）。

6　「霊場」とは，八方に位置する以下の八つの霊場のことであるとされている。カーマルーパ（東），コーッラギリヤ（南），チョーパーラ（＝オーディヤーナ，西），チョーナカ（北），マラヤ山（東南），クラーンタカ（南西），ジャーランダラ（北西），デーヴィーコッタ（北東）（*Artharatnāvalī*）。

7　要するに，展開された現象世界の様々な区別のことである。

8　一例を挙げれば，三つの根本種子マントラの一つに，vāgbhava（aṃ）という一字があるが，たとえば，このaṃという種子マントラを繰り返し唱えながら瞑想して完成させれば，ということである。

9　認識主体と認識対象と認識という形で三つに分かれているこの現象世界のことで

一番目［の文字］であり，［世界の］基体であり，種子である三角[10]から生ずるものであることは，現在でも見られる。

1.7. a, ka, ca で始まり，さらにṭa, ta, それに pa, ya, śa が加わった文字の行であり，［それぞれが］体の上部，両腕・両足の先，体の中央，心臓に住する［字母である偉大な女神に，私は敬礼する］[11]。

1.8. 最高の至福であり，文字 ī として現れ[12]，精髄中の精髄であり，絶対

ある（*Ṛjuvimarśinī*）。

10　11番目の文字とは，16母音中の11番目に相当する e 文字のことであるが，デーヴァナーガリー文字では三角の形にはならない。Finn［1986］, p. 178, note 123ではシャーラダー文字の可能性も示唆されているが，ネワール文字かもしれない。なお，この三角は下向きの三角で，ヨーニ（母胎）と呼ばれ，その三辺は，世界の創造と維持と破壊を司る Vāmā, Jyeṣṭhā, Raudrī からなるとされている（*Artharatnāvalī*）。

11　注1で述べたように，字母は，a から kṣa までのサンスクリット語のアルファベット50文字からなるが，それは8行に分類される。そして，字母である女神トゥリプラスンダリーは，これら50文字の母胎であって，言い換えれば，これらの50文字から成るわけだが，その50文字の各8行がそれぞれ，女神の身体に以下のように対応しているのである。

1. a 行　体の上部（顔）
2. k 行　両腕の先
3. c 行　両足の先
4. ṭ 行　両脇
5. t 行　背中
6. p 行　臍
7. y 行　腹
8. ś 行　心臓

なお，8行にあわせて「体の中央」を両脇・背中・臍・腹の四つに分けたのは *Ṛjuvimarśinī* により，「体の上部」を顔と解したのは *Artharatnāvalī* による。一方，*Vivaraṇa* は，テキストに多少の異なりがあるが，女神あるいは8行がそれぞれ行者の身体の各部分に住しているという意味に解釈している。

12　マーヤー字と呼ばれる ī 字は，三つの根本種子（vāgbhavabīja=aṃ, kāmarāja-

的なものでありかつ相対的なものでもある[13]偉大な女神に，私は敬礼する。

1.9. 神々は今でも，彼女の姿ある状態も姿のない状態も少しも知らない。［すなわち］彼女が誰で，何から生じ，どこにおり，どのようであるかを［知らないのである］。

1.10. 不滅であり，ア字の姿をしており[14]，世界を生み出すエネルギー(kula-kalā)[15]の波の中に輝く，最高の吉祥な存在である女神に，私は礼拝する。

1.11. 私は［字母である］女神に礼拝する。彼女の中には八女神[16]が［八］行に順に対応するような形で存在しており，［さらに彼女は］八行から生じた

---

bīja = āṃ, śaktibīja = sauḥ）および三つの根本ヴィディヤー（vāgbhavavidyā = k e ī l hrīṃ, kāmarājavidyā = h k h l hrīṃ, śaktividyā = h s k l hrīṃ）の頂点に位置する最も偉大な文字であるとされる（*Artharatnāvalī*）。

13　現象世界は，女神でもある根元的な言葉（Vāc）から展開すると考えられているが，その展開以前の原因の状態が絶対的なもの（parā）であり，展開した結果が相対的なもの（aparā）である。

14　*Artharatnāvalī* では，a から kṣa までの50字すべてが，ここでは，この a 字によって表現されているのだとされている。

15　*Ṛjuvimarśinī* によれば，kula とは，36原理からなる現象世界のことで，kalā とは，この現象世界を展開させるマーヤー・シャクティであるとされる。なお，kula と kalā について詳しくは，Finn［1986］, pp. 54-59参照。

16　8行と8女神の対応は以下の通りである。

1. a 行　Vaśinī
2. k 行　Kāmeśvarī
3. c 行　Modinī
4. ṭ 行　Vimalā
5. t 行　Aruṇā
6. p 行　Jayinī
7. y 行　Sarveśvarī
8. ś 行　Kaulinī

八神通力[17]の主宰女神でもあるのである。

1.12. 私は神聖なるトゥリプラー女神に敬礼する。[彼女は] カーマルーパ，プールナギリ，ジャ字で呼ばれるもの（ジャーランダラ），シュリー・ピータ（オーディヤーナ）[18]のうちに住み，[タントラの] 四つの権威ある系譜（ājñā）の宝庫なのである。

六十四タントラ

神聖なる女神が語った。

1.13. 主（シヴァ神）よ。あなたは私に，あらゆるマントラと，母神たちの六十四のすぐれたタントラとを明らかにしてくださった。

1.14. [その六十四のタントラとは]，おお主よ，(1) マハー・マーヤー [・タントラ]，(2) シャンバラ [・タントラ]，(3) ヨーギニー [・タントラ]，(4) ジャーラ・シャンバラ [・タントラ]，(5) タットヴァ・シャンバラカ [・タントラ]，(6-13) 八つのバイラヴァ [・タントラ]，

1.15. (14-21) 八つのバフルーパ [・タントラ]，(22) ジュニャーナ [・タントラ]，(23-30) 八つのヤーマラ [・タントラ]，(31) チャンドラ・ジュニャーナ [・タントラ]，(32) ヴァースキ [・タントラ]，(33) マハー・サンモーハ

17　8行と8神通力の対応は以下の通りである。

1. a 行　aṇimāsiddhi
2. k 行　laghimāsiddhi
3. c 行　mahimāsiddhi
4. ṭ 行　īśitvasiddhi
5. t 行　vaśitvasiddhi
6. p 行　prākāmyasiddhi
7. y 行　bhuktisiddhi
8. ś 行　prāptisiddhi

18　インドの東南西北にあったとされるタントラの四大霊場である。

ナ［・タントラ］,

1.16. おおマハーデーヴァよ。(34) マハー・ウッチュシュマ［・タントラ］, (35) ヴァートゥラ［・タントラ］, (36) ヴァートゥラ・ウッタラ［・タントラ］, (37) フリッド・ベーダ［・タントラ］, (38) マートリ・ベーダ［・タントラ］, (39) グフヤ・タントラ, (40) カーミカ［・タントラ］,

1.17. (41) カラー・ヴァーダ［・タントラ］, (42) カラー・サーラ［・タントラ］, それからさらに, (43) クブジカー・マタ［・タントラ］, (44) マタ・ウッタラ［・タントラ］, (45) ヴィーナ・アーキヤ［・タントラ］, (46) トゥロータラ［・タントラ］, (47) トゥロータラ・ウッタラ［・タントラ］,

1.18. おお主よ, (48) パンチャ・アムリタ［・タントラ］, (49) ルーパ・ベーダ［・タントラ］, (50) ブータ・ウッダーマラ［・タントラ］, (51) クラ・サーラ［・タントラ］, (52) クラ・ウッディーシャ［・タントラ］, (53) クラ・チューダーマニ［・タントラ］,

1.19. おお神よ, (54) サルヴァ・ジュニャーナ・ウッタマ［・タントラ］, (55) マハー・カーリー・マタ［・タントラ］, (56) マハー・ラクシュミー・マタ［・タントラ］, (57) シッダ・ヨーギーシュヴァリー・マタ［・タントラ］,

1.20. おお神よ, (58) クルーピカー・マタ［・タントラ］, (59) ルーピカー・マタ［・タントラ］, (60) サルヴァ・ヴィーラ・マタ［・タントラ］, おお神よ, (61) ヴィマラー・マタ［・タントラ］,

1.21. (62) アルネーシャ［・タントラ］, (63) モーヒニーシャ［・タントラ］, (64) ヴィシュッデーシュヴァラ［・タントラ］である。これらが［タントラの］聖典であり, さらにまた他に何百万もの［タントラをもあなたは明らかにしてくださったのである］[19]。

19　六十四タントラのまとめ。

(1)　Mahāmāyā

十六ニティヤー女神

1.22. おお神よ，あなたは私に，あらゆる知識を含む［六十四のタントラ］を語ってくださった。［しかしながら］神々の主よ，［あなたは］十六のニティヤー女神のことを暗示なさりはした［ものの］，完全には明らかになさらなかった。

1.23. そこで，おおシャンカラよ，私は今，彼女たちそれぞれの名前と，チャ

---

(2) Śambara
(3) Yoginī
(4) Jālaśambara
(5) Tattvaśambaraka
(6-13) 8 Bhairaba
(14-21) 8 Bahurūpa
(22) Jñāna
(23-30) 8 Yāmala
(31) Candrajñāna
(32) Vāsuki
(33) Mahāsaṃmohana
(34) Mahocchuṣma
(35) Vātula
(36) Vātulottara
(37) Hṛdbheda
(38) Mātṛbheda
(39) Guhya
(40) Kāmika
(41) Kalāvāda
(42) Kalāsāra
(43) Kubjikāmata
(44) Matottara
(45) Vīṇākhya
(46) Trotala
(47) Trotalottara

クラ供養と，［それらの女神たちに］満ちた［チャクラ］とについて，完全な形でお聞きしたいのです。

主宰神は語った。

1.24. 女神よ，お聞きなさい。十六ニティヤー女神の海について，多くの神々の名前やマントラや印（ムドラー）の群とともに，［あなたに］語ってあげよう。

1.25. ［それら十六ニティヤー女神は］あらゆるタントラの中に隠されており，［これまで］私がまったく説明したことのないものである。その［十六のニティヤー女神の］うち，頂点に位置するのが，第一のニティヤー女神マハートゥリプラスンダリー(1)である。

1.26. それから，ニティヤー女神カーメーシュヴァリー(2)，ニティヤー女神バガマーリニー(3)，ニティヤクリンナーと呼ばれる女神(4)，ニティヤー女神

---

(48) Pañcāmṛta
(49) Rūpabheda
(50) Bhūtoḍḍāmara
(51) Kulasāra
(52) Kloḍḍīśa
(53) Kulacūḍāmaṇi
(54) Sarvajñānottara
(55) Mahākālīmata
(56) Mahālakṣmīmata
(57) Siddhayogīśvarīmata
(58) Kurūpikāmata
(59) Rūpikāmata
(60) Sarvavīramata
(61) Vimalāmata
(62) Aruṇeśa
(63) Mohinīśa
(64) Viśuddheśvara

ベールンダー(5), ヴァフニヴァーシニー(6),

1.27. マハーヴィディエーシュヴァリー(7), ドゥーティー(8), トゥヴァリター(9), クラスンダリー(10), ニティヤー(11), ニーラパターカー(12), ヴィジャヤー(13), サルヴァマンガラー(14),

1.28. ジュヴァーラーマーリニー(15), チトラー(16)である。このようにニティヤー女神は十六なのである[20]。おお, 女神よ, まず最初に, 偉大なニティヤー女神トゥリプラスンダリーのことを聞きなさい。

チャクラの描き方

チャクラの描き方——内から外へ

1.29ab. おお, 女神よ, 彼女（トゥリプラスンダリー）が知れられると, 世

---

20 十六ニティヤー女神のまとめ。

(1) Mahātripurasundarī
(2) Kāmeśvarī
(3) Bhagamālinī
(4) Nityaklinnā
(5) Bheruṇḍā
(6) Vahnivāsinī
(7) Mahāvidyeśvarī
(8) Dūtī
(9) Tvaritā
(10) Kulasundarī
(11) Nityā
(12) Nīlapatākā
(13) Vijayā
(14) Sarvamaṅgalā
(15) Jvālāmālinī
(16) Citrā

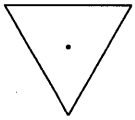
界に動揺が生み出される[21]。

1.29cd. ［第一の］シャクティ[22]に［第二の］シャクティを交差させ[23]，さらに，それら［二つのシャクティ］をヴァフニ・プラによって

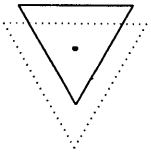
1.30. 囲んで[24]，すべての中で一番上のものであるシャクティ(第一のシャ

21　世界の創造すなわちシュリー・チャクラの生成が始まるという意味か？

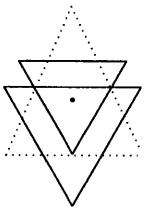
22　シャクティとはシュリー・チャクラにおける下向きの三角のことである。なお，この第一のシャクティの中央の黒点がトゥリプラスンダリー女神で，内側から数えて第一番目のチャクラ（なお，後に述べられるように，シュリー・チャクラを外側から数えれば第九番目のチャクラ）にあたる。そしてこの下向きの三角が第二番目（外側から数えれば第八番目）のチャクラである。



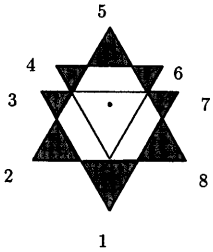
23　点線の三角が第二のシャクティである。



24　ヴァフニとはシュリー・チャクラにおける上向きの三角のことで，図中の点線の三角が第一のヴァフニである。



なおここで，第三番目（外側から数えれば第七番目）のチャクラである「八角からなるチャクラ」が完成である。図の黒塗りの八つの三角からなるチャクラである。



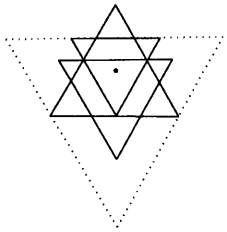
クティ)を，下に広げるべきである[25]。

同じように，これ（第三のシャクティ）に［第一の］ヴァフニ・チャクラを上の方に［広げて］交差させるべきである[26]。

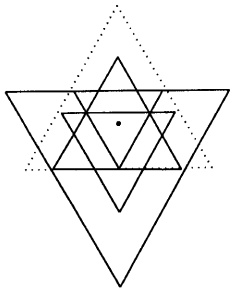
1.31ab. それから，一番上に位置するシャクティ（第一のシャクティ）を順次上の方に広げるべきである[27]。

1.31cd-32ab. おお，美しい女性よ，それから再び，第一のヴァフニ・チャクラを下の方に，［ヴァフニの二辺がシャクティと］交差する点から順次広げて，

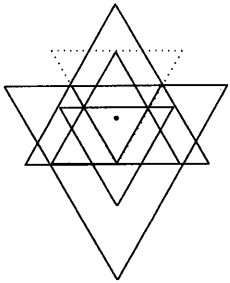
25　点線の三角を見れば分かるように，この三角は第一のシャクティを下に拡大するような形で作られているのである。これが第三のシャクティである。



26　点線の三角を見れば分かるように，この三角は第一のヴァフニを上に拡大するような形で作られているのである。これが第二のヴァフニである。



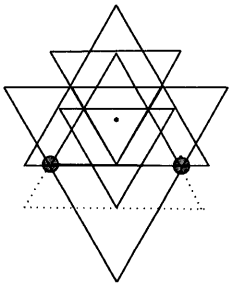
27　点線の三角参照。



一番外のシャクティ（第三のシャクティ）に交差させるべきである[28]。

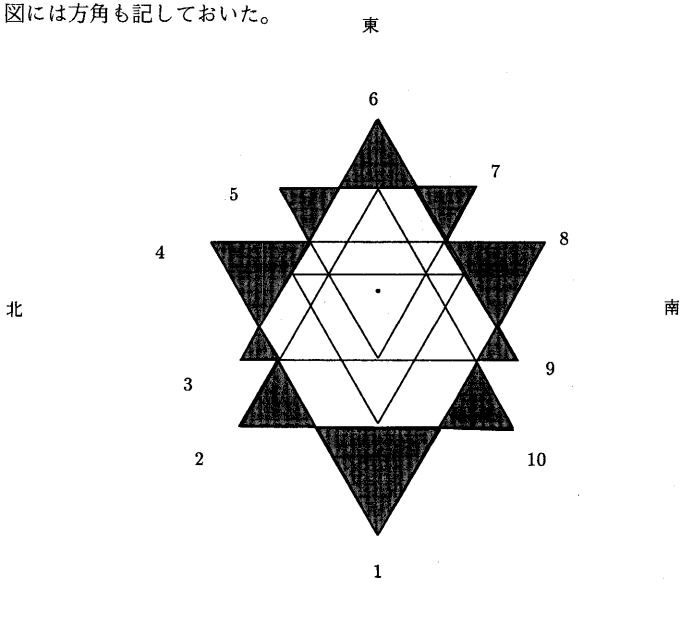
1.32cd. 同じように，すべての中で一番上にあって，ヴァフニを内に含むシャ

28　点線の三角参照。



ここの黒点はヴァフニの二辺がシャクティと交差する点を示す。

以上で，第四番目（外側から数えれば第六番目）のチャクラ，すなわち，図の中で黒く塗られた十の三角からなるチャクラ（「内側の十角からなるチャクラ」とも呼ばれる）の完成である。なお，行者は通常，チャクラを前にして東向きに座るので，図には方角も記しておいた。

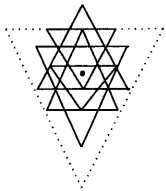


クティを，下方へと［広げるべきである］[29]。

1.33ab. 最初のチャクラ[30]の一番下のそのシャクティ(第四のシャクティ)に，［その中にある］ヴァフニ（第一のヴァフニ）を［広げて］，上向きに交差させるべきである[31]。

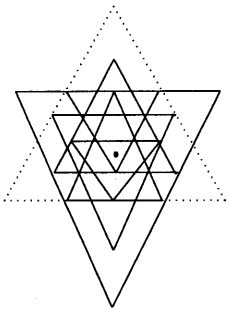
1.33cd-34ab. 再び，同じようにして，第一のシャクティを拡大して，下（第一の）ヴァフニと真ん中の（第二の）ヴァフニを除外した一番上のヴァフニ（第三のヴァフニ）に交差させるべきである[32]。

29　点線の三角参照。これが第四のシャクティである。

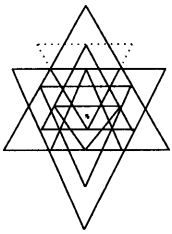


30　ここでは「内側の十角からなるチャクラ」のことを指している。

31　点線の三角参照。これが第三のヴァフニである。

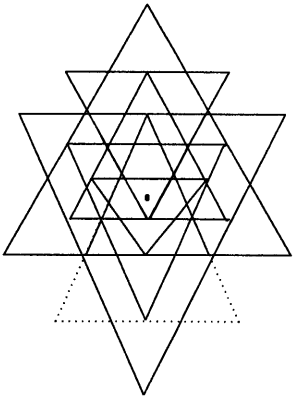


32　点線の三角参照。

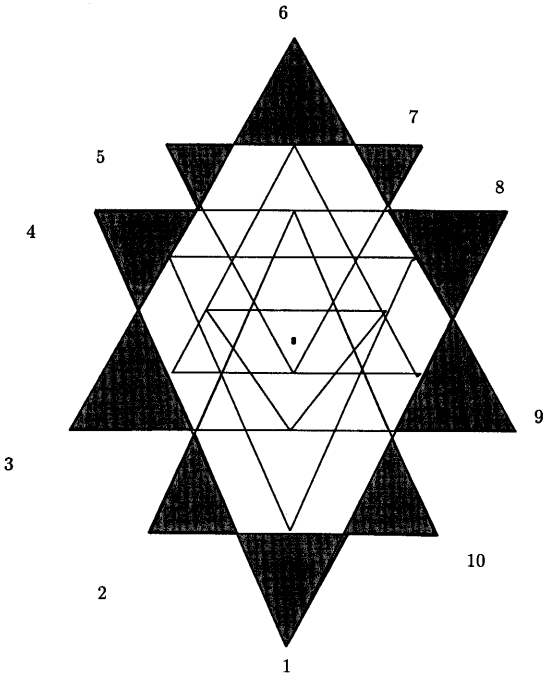


1.34cd-35ab. ［それから第一のヴァフニを］拡大して，第一のヴァフニを下方で［第四の］シャクティと交差させるべきである[33]。それから，第一と中間の（第二，第三の）シャクティの上方の［第四の］シャクティを，下の方に

33　点線の三角参照。



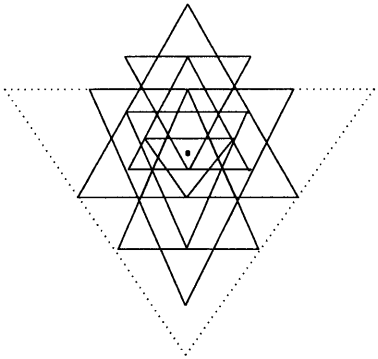
以上で，第五番目（外側から数えても第五番目）のチャクラ，すなわち，図の中で黒く塗られた十の三角からなるチャクラ（「外側の十角からなるチャクラ」とも呼ばれる）の完成である。



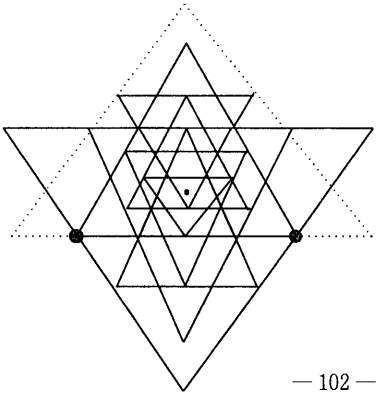
拡大すべきである[34]。

1.35cd-37ab. 同じようにして，おお，神々の主よ，すべてのチャクラを囲むべきである。［すなわち］，おお，偉大な主宰女神よ，彼女（第五のシャクティ）に，その［第三の］ヴァフニ・チャクラを交差させるべきである。［その第三のヴァフニは］すべての［ヴァフニの］中で一番上にあり，またすべての［ヴァフニの］中で一番外にあるが，［その第三のヴァフニの辺を第五のシャクティと第三のヴァフニの］交差する点から順次［水平に伸ばして］，おお，愛しい者よ，中間（第四）と一番上の（第一の）シャクティの［合計四つの］端（角）に［触れるようにしながら］[35]。

34　点線の三角参照。これが第五のシャクティである。



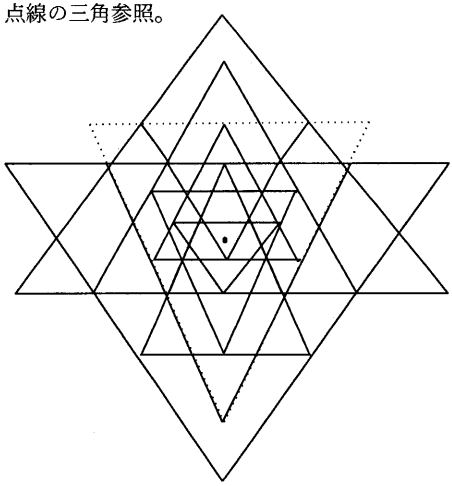
35　点線の三角参照。



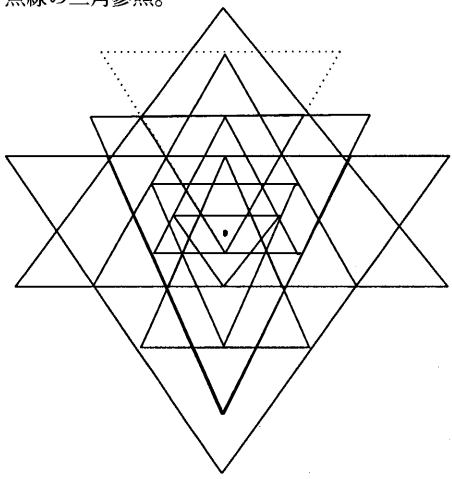
1.37cd. それから，一番外に位置するシャクティ（第五のシャクティ）の中にあるシャクティ（第四のシャクティ）を，上のほうに拡大すべきである[36]。

1.38. おお，主宰女神よ，同じようにして，第一のシャクティを，一番上のヴァフニ（第四のヴァフニ）の下にあるヴァフニ（第三のヴァフニ）まで，上の方に拡大すべきである[37]。おお，勇者たちに讃えられる女性よ。

36　点線の三角参照。



37　点線の三角参照。

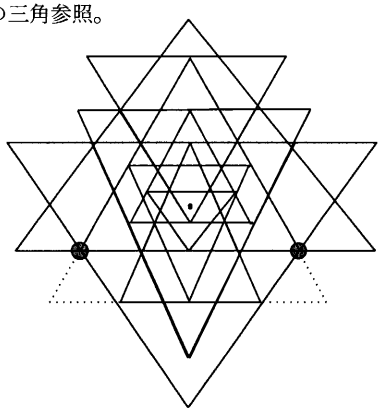


1.39. 同じように，一番上に位置するヴァフニ・チャクラ（第三のヴァフニ）[38]を，一番上のヴァフニ（第三のヴァフニ）の下の部分の［第三のヴァフニと第五のシャクティとの］交差する点の端から［拡大して］，交差させるべきである[39]。

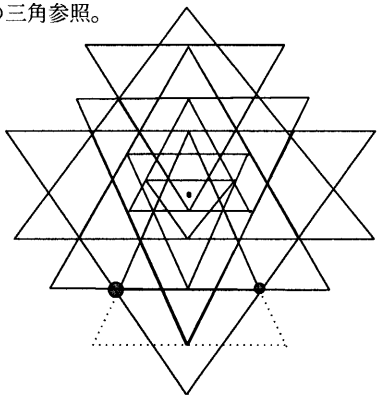
1.40ab. ［それから，第一のヴァフニを第一のヴァフニと第五のシャクティの交差する点の端から，下の方に］拡大して，一番下で一番外のシャクティ（第五のシャクティ）に交差させるべきである[40]。

38　一番上に位置するヴァフニとは第四のヴァフニのはずであるが，内容的には第三のヴァフニでなければシュリー・チャクラは描けない。テキストに混乱ありか？

39　点線の三角参照。



40　点線の三角参照。

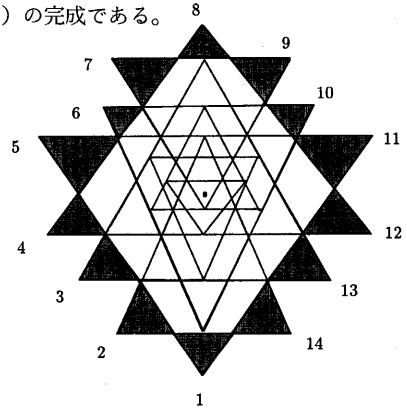


1.40cd. それから，この［十四角のチャクラの］外にある八弁の蓮華を描くべきである。

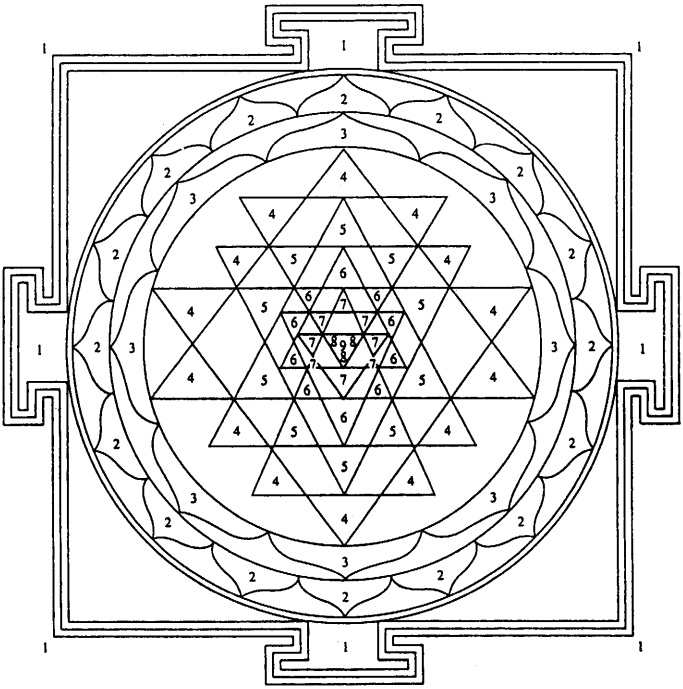
1.41. 同じように，おお，神々の中の主宰女神よ，その（八弁の蓮華の）外側に，十六弁［の蓮華］を［描くべきである］(41)。［それから］果皮と四つの門に飾られた外壁を描くべきである。

1.42. かくして，破壊であり［そして］実に火である第三の偉大なチャクラ（すなわち，八弁の蓮華と十六弁の蓮華と四つの門に飾られた外壁）が［存在するようになる］。第二のものである中間［のチャクラ］（十四角チャクラと二つの十角チャクラ）は［世界の］維持を表す。そして，最初［のチャクラ］

以上で，第六番目（外側から数えて第四番目）のチャクラ，すなわち，図の中で黒く塗られた十四の三角からなるチャクラ（「十四角からなるチャクラ」とも呼ばれる）の完成である。



41　次頁のシュリー・チャクラの完成図を参照のこと。番号3が第七番目（外側から数えて第三番目）のチャクラである八弁の蓮華で，番号2が第八番目（外側から数えて第二番目）のチャクラである十六弁の蓮華で，番号1が第九番目（外側から数えて第一番目）のチャクラであるチャクラの外壁と門と果皮（図中の最も内側の円）である。このテキストではこの第一番目のチャクラの描き方については，特別には記されていない。なお，このシュリー・チャクラの図の下に記された九つのチャクラのそれぞれの名前については，後に述べられることになる。



1 三界を惑わすチャクラ
2 すべての願いをかなえるチャクラ
3 あらゆるものの心をかき乱すチャクラ
4 あらゆる幸運を授けるチャクラ
5 すべての目的を達成させるチャクラ
6 あらゆることから守ってくれるチャクラ
7 すべての病気をはらってくれるチャクラ
8 あらゆる完成からなるチャクラ
9 あらゆる歓喜からなるチャクラ

図1　シュリー・チャクラ

（黒点ビンドゥと三角と八角のチャクラ）は創造を表す。

1.43ab. このようにして，偉大な神聖なるトゥリプラー女神の遍在するこの偉大なチャクラを［人は得るのである］。

チャクラが持つ力

1.43cd-44. ［チャクラの中にこの女神がいるものとしてチャクラを瞑想すれば，人はすべての人を］言いなりにし，メロメロにし，動揺させ，迷わせ，魅了し，おお偉大な女神よ，壊滅させ，動けないようにし，病気と貧困を取り除き，［自己の守護を求める自分自身あるいは他者に対する］悪い行いを滅ぼすことができるのである。

1.45. それは最高の［チャクラ］であり，平安，繁栄，富，健康，マントラの守護を生み出す［力を行者に授ける］。また，［行者に］享受（楽しみ）と解脱を授け，ケーチャラ(42)［の力を］支配することを生み出す。

1.46. おお，女神よ。同じように，それ（チャクラ）は，すべて［の危険］からの守護を行い，また，完全な至福を与える。また，あらゆる行為を完成させ，行為の意図を満たさせるのである。

1.47. おお，女神よ，それは最高の［チャクラ］であり，すべての［マントラの神々が行者の中に］降臨することを授け，すべての至福を授ける。おお，女神よ，それ（チャクラ）は，あらゆるマントラからなり，すべてのヨーゲーシュヴァリーを含んでいる。

1.48. おお，女神よ，それ（チャクラ）は，［神々の］あらゆる霊場からなり，また，あらゆる浸透（vedha)(43)を完成させる。おお，女神よ，それ（チャクラ）は，あらゆる宇宙原理からなり，また，権威あるあらゆる儀礼システム（ājñā）を含んでいる。

1.49. そして，それ（チャクラ）は，人間のあらゆる目的を含み，また，あ

---

42 *Ṛjuvimarśinī* によれば，天翔ける半人半鳥の存在 Vidyādhara 等のことだとされている。

43 *Ṛjuvimarśinī* によれば，vedha とは，神性とへ浸透するイニシエーション儀礼のことで，āṇava, śākta, śāmbhava の三種類からなるとされている。

らゆる知識から成り立っている。おお，愛しい者よ。おお，女神よ，それ（チャクラ）は，すべてのヴェーダに遍在し，また，すべての聖地（ティールタ）を含んでいる。

1.50. そして，それ（チャクラ）は，あらゆる誓願からなり，また，不死の甘露に完全に満たされている。それはあらゆる苦しみを鎮め，あらゆる悲しみを取り除くのである。

1.51. おお，女神よ，それ（チャクラ）は，あらゆる恍惚を生み出し，あらゆる喜びを授ける。それはあらゆる不運を鎮め，あらゆる障害を取り除く。

1.52. チャクラは，あらゆる神通力を完成させ，あらゆる希望を満たしてくれる。それは，［人を］殺したり，傷つけたり，気を狂わせたりする敵のマントラ群すべてを，飲み尽くしてしまう。

1.53. それ（チャクラ）は，他人の神通力を引きつけ，また，他の権威ある宗教の流派も引きつける。それ（チャクラ）は，敵の軍隊を動けなくし，また，他人の知識を惑わす。

1.54. それ（チャクラ）は，他人のチャクラを無力なものとし，また，［他人の］武器を無力なものとする。それは，最高の美的楽しみを生み出し，また，偉大な知性を生み出す。

1.55. おお，女神よ，それは最高［のチャクラ］である。それは，激しい熱をさまし，致命的な毒を取り除いてくれる。それは強力な死を滅ぼし，大きな恐怖を滅する。

1.56. おお，女神よ，それは最高［のチャクラ］である。それは［他人を］支配する大きな力を生み出し，偉大な浸透を完成させてくれる。それは大きな都市を揺るがし，また，大きな幸福と利益を授けてくれる。

1.57. それ（チャクラ）は，大きな繁栄からなり，おお，女神よ，また，大きな幸運を授けてくれるのである。それは偉大な力を備え，大きな罪を滅ぼす。

1.58. おお，偉大な女神よ。このように，私は，何億万カルパかかっても，

このチャクラの力を説明することはできないのである。

チャクラの描き方——外から内へ[44]

1.59. さて，では，トゥリプラー・チャクラを別のやり方で［どのように作るか］説明しよう。おお，女神よ，このために，［人はまず各線が］三手の長さ[45]のすぐれたマンダラ（四角）を作るべきである[46]。

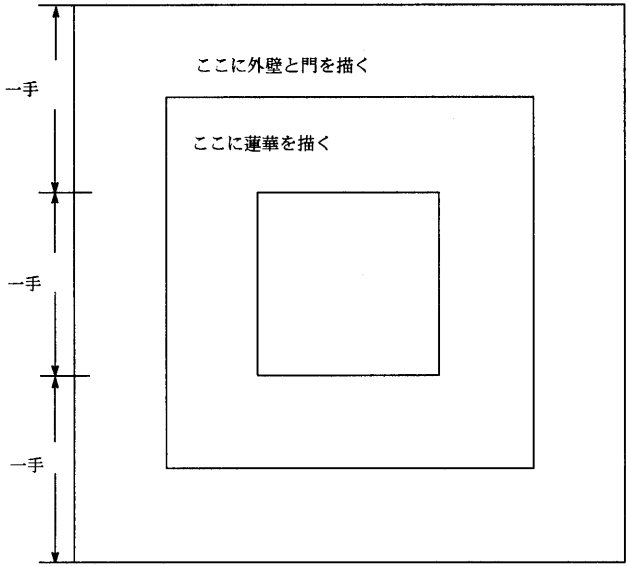
1.60 それから，この［マンダラの］第三の（最も内側の）［部分］にチャクラ（円）で飾られた果皮を作るべきである。第二の（真ん中の）［部分には］二つの蓮華（八弁の蓮華と十六弁の蓮華）を，そして残りの（最も外側の）［部

---

44 *Artharatnāvalī* には，チャクラを外から内へと描く描き方について，註釈という形を離れて別個に詳しい記述があり，以下の外から内へとチャクラを描く描き方について述べている部分は，後世の挿入ではないかとも思われるが，Jayaratha の註 *Vivaraṇa* にはこの部分が存在するので確定はできない。

45 一手の長さとは，肘から中指の先までの長さのことである。

46 図参照。

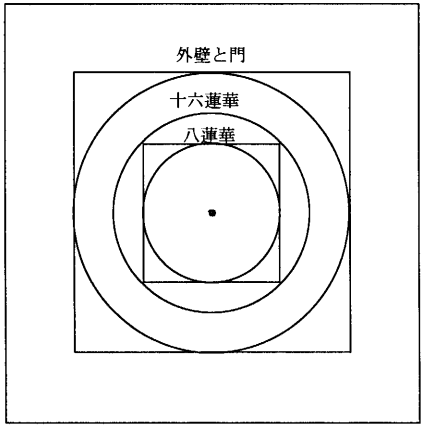


分には］四つの門を［作るべきである］(47)。

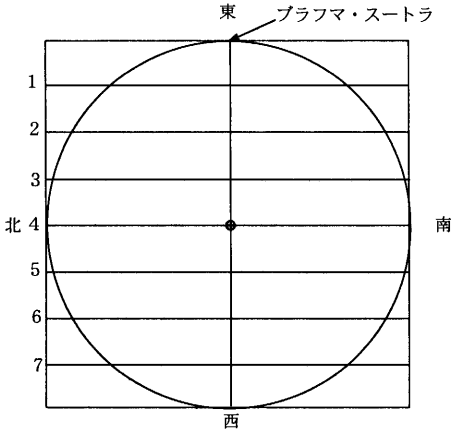
1.61. それから，果皮の大地の真ん中に［東から西へ］ブラフマ・スートラを最初に描いた後，そこ（果皮）に南（Yama）から北（Soma）に伸びた七つの糸を描くべきである(48)。

1.62-63ab. そののち，第四の糸（線）を消し，それで，中央の部分は［他の部分の］二倍の広さになるはずである。そして，第三の部分は［他の部分より］八分の一少なく，第五の部分は十六分の一少なくすべきである。このような量

47　図参照。



48　図参照。

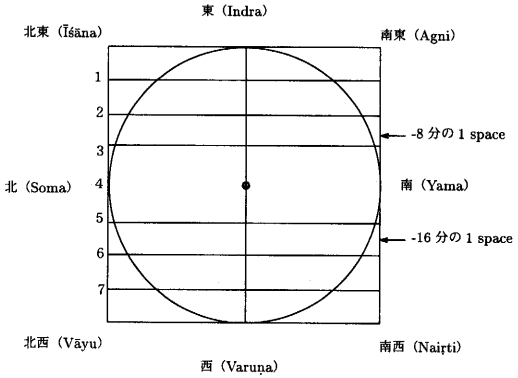


で（長さあるいは広さ）で，［今］，このシステムでは［果皮の］中に，七つの空間（列）がある[49]。

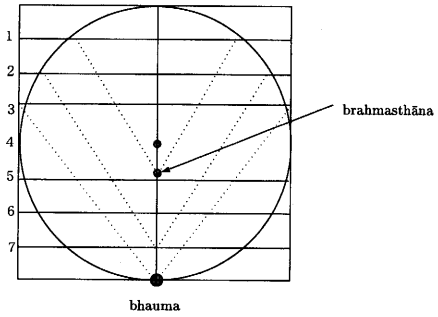
1.63cd-64. 第三，第二，第一の糸の［二つの］端から，二つの糸をそれぞれ下の方に伸ばすべきである。それから，［第三の糸からの二つの糸の場合には］二つの糸はバウマで，［第二の糸からの二つの糸の場合には］第七の糸で，［第一の糸からの二つの糸の場合には］ブラフマ・スターナで，それぞれ交わるのである[50]。

1.65-66. それから，第五の［糸の］下に位置する三つ［の糸，すなわち，第五，第六，第七の糸］の端から，［二つの糸をそれぞれ上の方に］引くべきである。それから，二つの糸はそれぞれ，バウマ，［ブラフマ・スートラと］第

49　図参照。



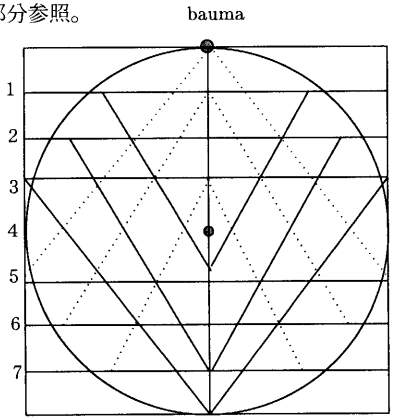
50　図中の点線部分参照。



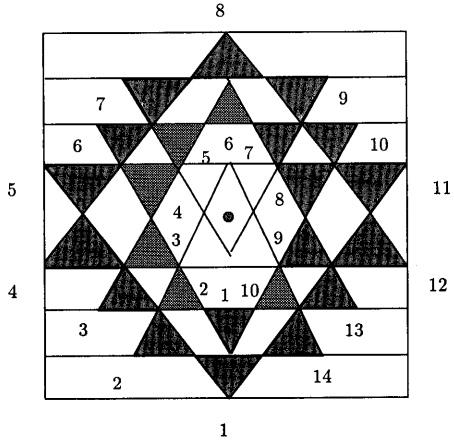
一の糸［の交差する点］，［ブラフマ・スートラと］第三の糸［の交差する点］で交わる[51]。こうして［今］六つの三角がある。おお，神々の主宰女神よ，今ここに，十四角［のチャクラ］と十角［のチャクラ］が完成した[52]。

1.67-68. 二つの糸をそれぞれ，ブラフマ・スートラの両側に，第二の糸から下方に，また，第六の糸から上方に，描くべきである。そののち，それらの［糸の］端で［第二の糸から下へまた第六の糸から上に引かれたそれぞれ二本

51　図中の点線部分参照。



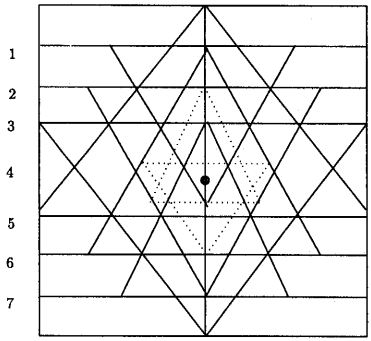
52　図参照。



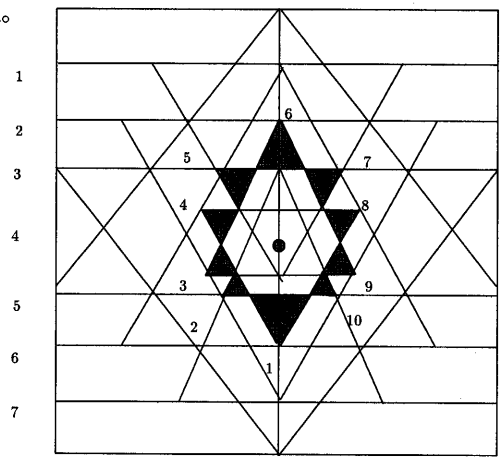
の糸と］交わる二つの糸を［水平に］伸ばすべきである[53]。おお，女神よ，［今内の］十角［のチャクラ］が完成した。これが第三の（最も内側の）チャクラである[54]。

1.69-70. 第五の糸の真ん中から，上向きと下向きの［三角の］真ん中に位置する三角の［第二のヴァフニとの］二つの交差点まで，別の二つの糸［のセット］を引くべきである。それから，これらの二つの糸と互いに交わる第三の糸

53　図中の点線部分参照。



54　図参照。

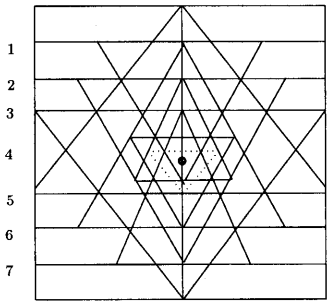


を描くべきである[55]。このようにして，八角［のチャクラ］が第四のものであり[56]，最も内のヨーニが第五のもの[57]である。

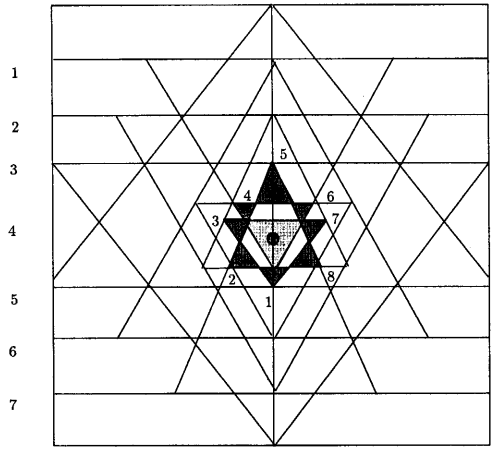
1.71. おお，神々の主宰女神よ，このようにして，［人は］魅力的なあらゆるチャクラを完成するのである。それは，創造のための五つのシャクティと，破壊のための四つのアグニ（ヴァフニ）からできている。

1.72-74ab. この［シュリー］チャクラは，五つのシャクティと四つのヴァフ

55　図中の点線部分参照。



56　図の濃い黒塗り部分参照。なお，第四のものというのは，果皮内での第一のチャクラである十四角のチャクラから数えての話である。



57　一番中央の三角のことである。図の薄い黒塗り部分参照。

ニの組み合わせによって創造されている。おお，女神よ，シャクティ（第一のシャクティ）の場所から創造の順で［創造された］，一つのもの（第一の三角），八角のもの，二つの十角のもの，十四角のものがある。おお，偉大な主宰女神よ，帰滅の順で，シャクティの場所[58]（第一のシャクティ）に［帰滅する］，十四角のもの，二つの十角のもの，八角のもの，一つのもの（中央の三角）がある。［これらのチャクラは］トゥリプラスンダリーのチャクラの上に確立しており，その［トゥリプラスンダリーのチャクラの］覚りから，人はバイラヴァになるであろう。

1.74cd-75. ［果皮の］外に二つの蓮華を作るべきである。一つは八弁によって，そしてもう一つは十六弁によって，囲まれている。それから［それらの蓮華のさらに外に］，［三］グナの領域[59]を作るべきである。そしてさらにその外側に，四つの門からなる四角を［作るべきである］。かくして［今］すぐれたチャクラがあるはずである。

1.76. ［今］マハー・トゥリプラスンダリー女神が，ここ，この偉大なチャクラに確立された。おお，女神よ。彼女がここ（この偉大なチャクラ）で優れた行者によってどのように崇拝されるかを聞きなさい。

種子とヴィディヤーの抽出

八行と八女神との対応

1.77. ［彼女は文字の］八つのグループの［それぞれの］行の文字の順序に従って八つの女神に囲まれている。おお，女神よ。［文字の］最初［の行］は，

58　チャクラの中央に位置する黒点を指す。この黒点が，のちにカーマカラーとも呼ばれるトゥリプラスンダリー女神である。

59　図1「シュリー・チャクラ」では一番外側の円が二重になっているが，本来は三重で，ここではこの三重の円のことを言っているのである。

a 行であり，そこにはヴァシニー女神(1)が確立している。

1.78. このあとに k 行が来て，そこにはカーメーシュヴァリー女神(2)が確立している。モーディニー女神(3)は c 行に，そして同じようにヴィマラー女神(4)が ṭ 行に確立している。

1.79. アルナー女神(5)は t 行に，そしてジャイニー女神(6)は p 行に確立している。サルヴェーシュヴァリー女神(7)は y 行に，そして同様にカウリニー女神(8)は ś 行に確立している。

1.80. これらの八女神が［文字の］これらの八行に正しく位置しているのである[60]。［彼女たちは，行者によって］崇拝されると，直ちに世界をその人の支配下にもたらす。

八女神の八種子の抽出

1.81-82. 人は最初に r 字を引き出すべきである。その下に曲がったもの（ph）の後に来るもの（b）がある。この（b）がさらに第六の母音（ū）と結びついた大地の種子（l）に住する。おお，最高の主宰者よ。［ūの］上に半月とビンドゥ[61]を作るべきである[62]。これはヨーギニーの頂点に位置するヴァ

60　八行と八女神との対応のまとめ。

(1) a 行 — Vaśinī

(2) k 行 — Kāmeśvrī

(3) c 行 — Modinī

(4) ṭ 行 — Vimalā

(5) t 行 — Aruṇā

(6) p 行 — Jayinī

(7) y 行 — Sarveśvarī

(8) ś 行 — Kaulinī

61　下記の図中の半円が半月で黒点がビンドゥである。

シニー女神の種子(1)である。

1.83-84. おお，偉大な主宰者よ。第二行（k行）の最初［の文字k］がインドラ（l）の上に乗っている。そののち人は空の種子（h）を引き出し，［それが］火（r）の上に住している。それらは第四の母音（ī）と結びつき，ビンドゥと半月に飾られている[63]。これが三世界を滅ぼすカーメーシュヴァリー女神の種子(2)である。

1.85-86ab. アルナー行（t行）の第五（n）の下にヴァルナ［の種子（v)］をくっつけるべきである。さらにその下に，インドラの種子（l)，そしてすべて［三つの種子］の上に，iの後に来るもの（ī)。［それからそれらは前と同じようにビンドゥと半月に飾られている］[64]。これがすべての生き物を支配する力を授けてくれるモーディニー女神の種子(3)である。

1.86cd-88ab. ヴァーユに属するもの（y）が，第六の母音（ū）を備えたインドラの種子（l）の上に立ち，その頭の上には半月とビンドゥが乗っている[65]。おお，女神よ，ここに私は，すべての罪を取り除き災厄を破壊するヴィマラー女神のすぐれた種子(4)をあなたに告げる。

1.88cd-89. カーラ（m)に乗った文字jとそれらの下に火の文字（r)，そしてそれが第四の母音（ī)と結びつき，［さらに］ビンドゥとナーダと結びついている[66]。これがすべてを惑わすアルナー女神の赤い種子(5)である。

1.90-91ab. シヴァの種子（h)，その前に位置するもの（s)，それらの下にはインドラに属するもの（l）とヴァルナに属するもの（v）がある。［それから］ヴァーユに属するもの（y)をuの後に生み出されるもの（ū）と結び付ける。

62　かくして第一の種子 rblūṃ(1)が得られる。

63　かくして第二の種子 klhrīṃ(2)が得られる。

64　かくして第三の種子 nvlīṃ(3)が得られる。

65　かくして第四の種子 ylūṃ(4)が得られる。

66　かくして第五の種子 jmrīṃ(5)が得られる。

おお，最高の主宰女神よ。これがナーダとビンドゥに飾られたジャイニー女神の種子(6)である[67]。

1.91cd-93. おお，最高の主宰女神よ。人はモーディニー行（c 行）の第四の文字（jh）を引き出すべきである。その下にそれぞれカーラ（m）と火（r）とヴァーユに属するもの（y）を結び付けるべきである。それらがこの順で長命の種子（ū）と結び付けられる。その上に主（ナーダ）[68]とビンドゥが最後に来て，それらが一緒に結び付けられる[69]。おお，美しい女性よ。これがあらゆるところでそれを越えるもののいないサルヴェーシュヴァリー女神の種子(7)である。

1.94-95. おお，女神よ。カウリニー（ś 行）から第五の文字（kṣ）を取り出し，それをカーラの種子（m）の上に置くべきである。［そしてこれら三つの種子］すべての下に，［以前と同じように］火の種子（r）を結び付けるべきである。［そしてそれらは］第四の母音（ī）と結び付けられ，そしてビンドゥと半月で飾られるべきである[70]。おお，美しい女性よ。これがカウリニーの姿で立つ優れた種子(8)である。

八ヴィディヤーの抽出

1.96. このように私はあなたに順次これらの八つの種子を告げた[71]。おお，

---

67 かくして第六の種子 hslvyūṃ(6)が得られる。

68 *Artharatnāvarī* によった。*Ṛjuvimarśinī* は kalā と解している。

69 かくして第七の種子 jhmryūṃ(7)が得られるのである。

70 かくして第八の種子 kṣmrīṃが得られる。

71 八女神の八種子のまとめ。

(1) rblūṃ — Vaśinī

(2) klhrīṃ — Kāmeśvarī

(3) nvlīṃ — Modinī

偉大な主宰女神よ。今［主な］ヴィディヤーの部分を形作る［種子］のことを聞きなさい。

1.97-98. おお，愛しい者よ。聞きなさい。それらは手を浄化するヴィディヤー(1)であり，また，［行者の］肢体へのニヤーサに用いられる［ヴィディヤー］(2)であり，また，自己という座に存在する［ヴィディヤー］(3)であり，また，チャクラという座に存在する［ヴィディヤー］(4)であり，あらゆるマントラという座に存在する［ヴィディヤー］(5)であり，行者と完成者という座に存在する［ヴィディヤー］(6)であり，女神を勧請するヴィディヤー(7)であり，根本ヴィディヤー(8)である。

1.99-100ab. 最初がヴァーグバヴァ（言葉の展開）（aṃ）であり，第二がカーマラージャ（āṃ）である。おお，女神よ。ś の後の後に来るもの（s）が，k の前に来るもの（ḥ）と結びつき，ai の後の後に来るもの（au）と結びつく。［かくして sauḥとなる］。おお，偉大な主宰女神よ。このヴィディヤー（aṃ āṃ sauḥ）が，手を浄化するためのものだと知られている[72]。

1.100cd-102. e と o の間の種子（ai）が『ルドラヤーマラ・タントラ』では言葉の領域の中だけで考えれば最高の文字だと記されている[73]。シャクラ（l）と結びついたマーダナ（k）が，第四の母音（ī）と結びつき，その上に半月とビンドゥが乗る[74]。それから［この klīṃ が］最初の［種子すなわち aiṃ］

---

(4) ylūṃ — Vimalā

(5) jmrīṃ — Aruṇā

(6) hslvyūṃ — Jayinī

(7) jhmryūṃ — Sarveśvarī

(8) kṣmrīṃ — Kaulinī

72 vidyā (1) = karaśuddhikarīvidyā

73 かくして aiṃが抽出される。

74 かくして klīṃが抽出される。

の後に来る。それからその後に再び，ś の後の後に来るもの（s）が，k の前に来るもの（ḥ）と結びつき，ai の文字の後の後に来るもの（au）と結びついたもの[75]が来る[76]。

1.103. このヴィディヤー（aiṃ klīṃ sauḥ）は，偉大なヴィディヤーであり，ヨーギニーの偉大な現れである。おお，偉大な主宰女神よ。それがすべての行為の目的を達成するクラ・ヴィディヤーである[77]。

1.104ab. おお，ガウリー女神よ。人はこのヴィディヤーによって身体の各部分のニヤーサ[78]をなすべきである。

1.104cd-105ab. このヴィディヤー（aiṃ klīṃ sauḥ）の最初の種子の代わりに，シヴァ（h）とマーヤー（ī）と火（r）とビンドゥを置いて[79]，自己という座に存在するヴィディヤーを作るべきである[80]。

1.105cd-106ab. さらに，シヴァ（h）が［それぞれ］，最初のヴィディヤー（aiṃ klīṃ sauḥ）の上（最初）と，次と，さらに次の［部分］に結び付けられる[81]。チャクラという座に存在するこのヴィディヤーは三世界を惑わすものである[82]。

1.106cd-107ab. さらに再び，最初の偉大なヴィディヤー（aiṃ klīṃ sauḥ）にシヴァ（h）と月（s）をつけて[83]，この［あらゆる］マントラという座に

---

75 かくして sauḥが抽出される。

76 その結果，aiṃ klīṃ sauḥが抽出される。

77 vidyā (2) = kulavidyā = aiṃ klīṃ sauḥ = aṅganyāsasaṃsthitavidyā

78 ニヤーサについては後述。

79 hrīṃとなる。

80 かくして，vidyā (3) =hrīṃ klīṃ sauḥ = ātmāsanagatavidyāが抽出される。

81 かくして haiṃ hklīṃ hsauḥが抽出される。

82 結果として，vidyā (4) =haiṃ hklīṃ hsauḥ = cakrāsanagatavidyāが抽出される。

83 かくして，hsaiṃ hsklīṃ hssauḥが抽出される。

存在するヴィディヤーは，［あらゆる］望みを満たしてくれる[84]。

1.107cd-109ab. 先に述べた自分が女神の座となるヴィディヤー（hrīṃ klīṃ sauḥ）の最後の部分（sauḥ）に，水滴（v）とビンドゥとシャクラ（l）とシャクティ（e）を半月とともに順次結び付けて（vleṃ），上記［の自分が女神の座となるヴィディヤー］の順に従って，最後の部分だけを変えて［hrīṃ klīṃ vleṃを得る］。［これが］行者と完成者という座に存在する［ヴィディヤー］である[85]。

1.109cd-110ab. 最初［のヴィディヤー（aiṃ klīṃ sauḥ）］が，火（r）の座に置かれたガチョウの種子（hとs）に乗られているもの（hsraiṃ hsrklīṃ hsrsauḥ）が，女神の勧請に用いられ，人のあらゆる目的を達成するヴィディヤーである[86]。

1.110cd-111ab. おお，女神よ。このように，これらの偉大なヴィディヤーは，人のすべての目的を満たすことを授けてくれるのである。おお，愛しい者よ。［今］マハー・トゥリプラスンダリー女神の根本ヴィディヤーを聞きなさい。

1.111cd-113ab. マーダナ（k）を［取り］，その下にシャクティ（e），さらにその下にビンドゥマーリニー（ī）が［来る］。それから，インドラに属するもの（l）と虚空の種子からなるもの（h）が［来て］，その下に燃える文字（r）がある。それからそれらすべての上に，主であるビンドゥと結びついたマーヤー（ī）が結びつく[87]。おお，女神よ。これが人の言葉への支配力を促進するヴァー

84　結果として，vidyā (5) =hsaiṃ hsklīṃ hssauḥ = sarvamantrāsanasthitavidyāが抽出される。

85　結果として，vidyā (6) =hrīṃ klīṃ vleṃ = sādyasiddhāsanasthithavidyāが抽出される。

86　結果として，vidyā (7) =hsraiṃ hsrklīṃ hsrsaruḥ = devyāvāhanavidyāが抽出される。

87　かくして，k e ī l hrīṃが抽出される。

グバヴァである[88]。

1.113cd-116ab. 創造と維持と破壊の順で三回シヴァの種子（h）を結び付け，［後ろの］二つの［h］が最初の［h］から離され，最初の［h の］下にマダナの文字（k）が［来る］[89]さらに，維持のシヴァ（第二の h）の下に，インド

88　これがマハートゥリプラスンダリー女神の根本ヴィディヤーの第一クータ（vidyā (8-1)）である。

89　かくして，hk が抽出される。

90　かくして，hl が抽出される。

91　かくして，hrīṃ が抽出される。

92　これがマハートゥリプラスンダリー女神の根本ヴィディヤーの第二クータ（vidyā (8-2)）である。

93　かくして，h s k l hrīṃが抽出される。また全体としては，マハートゥリプラスンダリー女神の根本ヴィディヤーの第三クータ（vidyā (8-3)）が抽出されたことになる。

94　種子とヴィディヤーのまとめ。

(0) 3 根本種子

(0.1) aṃ = vāgbhava

(0.2) āṃ = kāmarāja

(0.3) sauḥ = śaktibīja

(1) aṃ āṃ sauḥ = karaśuddhikarīvidyā

(2) aiṃ klīṃ sauḥ = aṅganyāsasaṃsthitavidyā = kulavidyā

(3) hrīṃ klīṃ sauḥ = ātmāsanagatavidyā

(4) haiṃ hklīṃ hsauḥ = cakrāsanagatavidyā

(5) hsaiṃ hsklīṃ hssauḥ = sarvamantrāsanasthitavidyā

(6) hrīṃ klīṃ vleṃ = sādhyasiddhāsanasthitavidyā

(7) hsraiṃ hsrklīṃ hsrsauḥ = devyāvāhanavidyā

(8) 根本ヴィディヤーの 3 根本種子

(8.1) k e ī l hrīṃ = vāgbhava

(8.2) h k h l hrīṃ = kāmarāja

(8.3) h s k l hrīṃ = śaktibīja

(9) mūla vidyā = k e ī l hrīṃ h k h l hrīṃ h s k l hrīṃ

ラの種子（l）を結び付けるべきである[90]。同じように，おお，偉大な主宰女神よ，破壊のシヴァ（第三のh）の下にも，第四の母音（ī）と結びつき，ビンドゥと三日月に飾られた燃えるもの（r）を［結び付けるべきである］[91]。このように，これ（h k h l hrīṃ）は，カーマラージャ［と呼ばれる］偉大な種子であり[92]，偉大な繁栄を生み出す。

1.116cd-117ab. おお，偉大な主宰女神よ。マーヤー種子（hrīṃ）を，シャクラ（l）と結びついたマーダナ（k），チャンドラ種子（s），独り者（h）と結び付けて，おお，美しい女性よ，

1.117cd-118ab. おお，女神よ。創造の順序（すなわちaからkṣaへ）を捨てて，［マントラを現す際に］以前あなたがしたように，［今］，破壊の順序（すなわちkṣaからaへ）に従って，シャクティ種子を取り出すべきである[93]。

1.118cd-119ab. このように，これ（k e ī l hrīṃ h k h l hrīṃ h s k l hrīṃ）が，偉大なヴィディヤーであるマハー・トゥリプラスンダリー女神である[94]。おお，偉大な女神よ。これは，想起されれば，三界の服従を引き起こすのである。

［参考文献］

［サンスクリット原典］

NṢA = Nityāṣoḍaśikārṇava

Ed. by Vrajvallabha Dviveda, *Nityāṣoḍaśikārṇavaḥ* with Two Commentaries *Ṛjuvimarśinī* by Śivānanda and *Artharatnāvalī* by Vidyānanda, Yogatantragranthamālā, Vol. 1, Varanasi, 1985. With Appendix: *Tripurasundarīdaṇḍaka* of Dīpakanāthasiddha, and *Subhagodaya*, *Saubhāgyahṛdayastotra* and *Subhagodayavāsanā* of Śivānanda, and *Saubhāgyasudhodya* and *Cidvilāsastava* of Amṛtānanda.

Setu = Setubandha of Bhāskararāya

Nityāṣoḍaśikārṇava with the Commentary Setubandha of Bhāskararāya, Ānandāśrama Samskrit Series, No. 56, Poona, 1973.

VM = Vāmakeśvarīmata

Ed. by Madhusudan Kaul Shastri, *The Vāmakeśvarīmatam with the Commentary of Rājānaka Jayaratha*, Kashmir Series of Texts and Studies, No. LXVI, Srinagar, 1954.

［研究書および翻訳］

Brooks, D. R.

1990 *The Secret of the Three Cities: an Introduction to Hindu Śākta Tantrism*. Chicago / London: University of Chicago Press.

1992 *Auspicious Wisdom: the Texts and Traditions of Śrīvidyā Śākta Tantrism in South India*. Albany: State University of New York Press.

Finn, L. M.

1986 *The Kulacūḍāmaṇi Tantra and the Vāmakeśvara Tantra with the Jayaratha Commentary*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

Goudriān, T. and Gupta, S.

1981 *Hindu Tantric and Śākta Literature*. A History of Indian Literature, II. 2. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

Gupta, S. , Hoens, D. & Goudriān, T.

1979 *Hindu Tantrism*. Handbuch der Orientalistik, 2. Abt, 4. B, 2. Abschnitt. Leiden / Köln: E. J. Brill.

井田克征

2000 「Śrīkula 派の瞑想における世界認識の構造——*Varivasyārayasya*

の mantra 論を中心に――」『北陸宗教文化』12, pp.39-66。

2001　「タントラ文献における nyāsa 儀礼の一例――*Yoginīhṛdaya* の第三章を中心として――」『北陸宗教文化』13, pp.121-142。

2003　「『タントララージャ』におけるホーマ儀礼」『金沢大学大学院社会環境科学研究科・社会環境研究』8, pp.13-23。

Padoux, A.

1990　*Vāc: the Concept of the Word in Selected Hindu Tantras*. Tr. by J. Gontier. Albany: State University of New York Press.

1994　*Le Cœur de la Yoginī: Yoginīhṛdaya avec le Commentaire Dīpikā d'Amṛtānanda*. Collège de France Publications de l'Institute de Civilisation Indienne, Fascicule 63. Paris: Diffusion de Boccard.

島　岩

1999　「シャークタ派の密教――シュリー・チャクラの構造を中心として――」『インド密教』（立川武蔵・頼富本宏編）（シリーズ密教Ⅰ）春秋社, pp. 251-265。

2000　「クラ派の南の伝承におけるシュリー・チャクラの構造」『加藤純章博士還暦記念論集――アビダルマ仏教とインド思想』春秋社, pp.433-444。

2003　「マントラとヤントラの用法――NṢA 第二章和訳」『仏教の修行法』（阿部慈園博士追悼記念論集）春秋社, pp.303-318。

2003　「チャクラの崇拝――NṢA 1.119cd-188和訳――」『神子上恵生博士退官記念論集』, 近刊。

2003　「印の結び方――『十六ニィティヤー女神の海』 第三章和訳――」『印度学仏教学』18, pp.97-106。